ふれあうナカマ 育む 見守る　学校は地域と共に歩んでいます。宮城県内の小中学校の様子、自慢できることを、児童・生徒が紹介します。　育む 見守る ふれあうナカマ

大沢小

目標決めてみんな仲良く

これがイチオシ

楽しくておいしい給食

大沢小学校の給食は自校給食で、いつも温かい給食が食べられます。郷土料理や、委員会とコラボした給食も出ます。中でも人気なのは、図書委員会とのコラボです。ジブリ飯や本の中に出てくる食べ物が食べられます。

ほかにも「先生の思い出給食」では、紫色のあじさいスープやレバニラなど、ふだんは出ない給食が提供されます。思い出給食から定番メニューになるものもあるそうです。楽しく、おいしい給食を食べて、これからも元気いっぱい、大沢小で頑張ります。

学校名　仙台市立大沢小学校
所在地　仙台市青葉区芋沢長坂22
創　立　1873年
電　話　022(394)2224
校　長　桜田　元太郎
児童数　308人

葉っぱのプロジェクト

大沢小学校では計画委員会を中心に「なかよしの木プロジェクト」という、みんなが仲良くなる活動をしています。大沢小の皆が大事にしている「みんなのためにプラス1！」をしたり、親切にしてもらったり、あいさつをしたりすると葉っぱを1枚「なかよしの木」に貼ることができます。

毎年、目標枚数を決め、達成できた学級は賞状をもらえます。活動が終わると、各学級で振り返りの動画を撮影し、朝会で流します。動画の中では「教室がきれいになった」「元気にあいさつする人が多くなった」という感想がありました。

プロジェクト名は毎年、代表委員会で決めます。1回目の名前は「あいさつの木プロジェクト」で、葉っぱを貼れる条件は「10人にあいさつする」でした。地域の人や交通指導隊の方々から「あいさつがとっても元気になる」と言ってもらえました。

私たち6年生は卒業しますが、後輩たちにはこの活動と「みんなが仲の良い大沢小」を守り続けてほしいです。

たくさんのシールが貼られた「なかよしの木」

編集委員　高橋咲彩、庄子羽琉、遊佐泰成、橋本咲、佐藤晴斗、近江渚、片山更紗（3月卒業）　指導教員　小高根大介

わが校 わがまち スクール通信

次回は
円田小（蔵王町）
西中田小（仙台市）

西郷小

舞も思いも大切につなぐ

これがイチオシ

体力向上へ「業間運動」

西郷小学校では、業間休みにみんなの体力向上を目指し、春から秋は持久走、冬には縄跳びと、季節に合わせた「業間運動」をしています。

持久走はみんなで励まし合って少しでも長く走れるように、縄跳びでは長縄の8の字跳びに、それぞれ取り組みました。記録の更新を目指し、どの学年も頑張っています。どちらも宮城県の「Web運動広場」に記録を登録し、1位をとった学年もあります。

これからも、みんなで楽しく運動に取り組んでいきたいと思います。

学校名　登米市立西郷小学校
所在地　登米市南方町尼池10の1
創　立　1873年
電　話　0220(58)2141
校　長　佐藤　康
児童数　57人

地域の伝統「畑岡神楽」

西郷小学校は、1873(明治6)年に開校した歴史ある学校です。ラムサール条約に登録されている蕪栗沼が近く、冬には多くの渡り鳥の姿を見ることができて、地域は自然が豊かです。児童数は少ないですが、学校のみんなで大切に守っている伝統があります。それは「畑岡神楽」です。

畑岡神楽は、明治時代初期から西郷地域で舞われてきた伝統芸能です。1982年から西郷小での稽古が始まりました。畑岡神楽保存会の方々に丁寧に教えていただき、運動会や地域のお祭りで披露しています。

2月の「引継ぎ式」は、卒業する6年生が下級生に伝統を引き継ぐ大切な行事です。足の出し方やお幣束の持ち方などを優しく教え、少しずつ上手に舞えるようになっていきます。そんな上級生の様子を見て、「自分たちも伝統を守っていきたい」という思いがつながっていく活動です。

西郷小は統合で2027年度に閉校する予定ですが、「畑岡神楽」を大切な伝統として忘れずにいたいと思います。

運動会で披露した畑岡神楽

編集委員　及川愛莉、後藤辰生、千葉叶翔、山形優奈（3月卒業）
指導教員　伊東博昭

NEWS ニュース アラカルト

紙コップ透明化に成功

プラスチックの代わりに

植物からできた「板紙」を透明にして、コップやストローを作ることに成功したと海洋研究開発機構などが発表しました。海に流れても微生物が分解するので、海を汚す原因となるプラスチック容器の代わりになるかもしれません。

食べ物の容器は、透けて中が見えたほうが「買いたい」と思わせることができるという研究があります。ただ、紙パックにも使われる板紙は白色で、透明な容器にするのは難しいとされていました。

チームは、金属の一種のリチウムなどでできた液体を使って板紙の材料を溶かしました。固めて洗い、乾かすと100メートル後ろの物が見えるほど透明になりました。

水に強く、洗って何度も使えます。古い紙から作ることもできるそうです。

透明な板紙で作ったコップとストロー（海洋研究開発機構提供）

本のプロ 推しの一冊

パインさんのごちゃまぜかんばん
レオナード・ケスラー さく
小宮由 やく
大日本図書

眼鏡なしで次々取り付け

パインさんは、看板屋です。パインさんの住む町、リトル・タウンの看板は、すべてパインさんが作りました。何年もたち、看板が古くなったので、町中の看板を新しく作り替えることになりました。町長さんに頼まれたパインさんは、張り切って仕事に取りかかり一週間で全ての看板を描き終えました。

看板を付け替える日、朝からパインさんの眼鏡が見当たりません。しかたなく眼鏡なしで町へ出かけたパインさん。新しい看板を次々と取り付けたのですが、あれあれ、なんだか町の様子が変です。銀行の看板が「パンや」になっていたり、「とまれ」の看板の下に「すすめ」の看板がついていたり…。でも、パインさんは気が付いていません。

さあ、看板がごちゃ混ぜになってしまったリトル・タウンはどうなるでしょうか？　小学校低学年から。

（仙台市広瀬図書館　佐藤葉子さん）